

料理をつくることで、笑顔や会話が生まれる。  
 支援の輪は国境を越えて広がっています。



Muhammad "Ozy" Fachrurozy (オッジ) インドネシア味の素社  
 2012年10月18日 宮城県亘理町仮設住宅

地元の食材を使い、栄養バランスの良いカンタンな料理のつくり方を学ぶ「健康・栄養セミナー」。  
 震災以来、仮設住宅で続いているこのセミナーに、  
 世界各国の味の素グループのメンバーがボランティアで参加しました。

みんなで調理をし、料理を囲むことで、会話が生まれます。自然に笑顔がこぼれ、元気が出てきます。そして毎日を健康に生活するための力がみなぎってきます。2012年10月、世界各国から集まった味の素グループのスタッフが、「健康・栄養セミナー」にボランティアで参加しました。国も文化も言葉も違う人々が一緒につくったのは「はらこ飯」。ふっくらと炊き上げたご飯に地元で獲れた鮭の煮汁をまぶし、その上に鮭の身とイクラをのせた郷土料理です。言葉はまるで通じないのに、みんなでおいしい料理を囲むと、なぜかいろいろなことが分かりあえてくる。そんな不思議で楽しい時間が訪れました。「はらこ飯」を囲みながら、12の国から集まった24名のメンバーは、世界中の人たちが日本を応援していることを、セミナーに参加した方々に伝えました。「健康・栄養セミナー」は復興の足取りが確かなものになるまで続けます。



被災地の被害の甚大さや住民のみなさんが直面している状況を目の当たりにして、非常に胸が痛みました。しかし、そうした困難の中、みなさんが静かな威厳、素晴らしいユーモアのセンス、そして途方もない強さを持っていることに心から敬意を表したいと思います。

Sarah Lamendola (サラ) 🇺🇸 味の素ノースアメリカ社



栄養について学ぶことはとても大切だと思います。ですが、それ以上にこうした活動を通じて、一緒に集まり何かに取り組むことで「態度・姿勢」というものが変わっていくことは、さらに大事だと感じました。みなファミリーです。みなさまの健康を心よりお祈りしています。

Dang Tran Hai (ダン) ★ 🇻🇳 ベトナム味の素社



今回、食べるという行為を通じて人は集まり、そして心と心がつながっていく、そんなことを感じました。これこそまさに「絆」という文字が持つ意味なのかもしれません。みなさんの笑顔を見つけて、とてもあたたかい気持ちになりました。ブラジルでもこの経験を伝えていきたいと思っています。

Carolina Ishizaki (カロリーナ) 🇧🇷 ブラジル味の素社

人と地球の未来のために。  
 味の素グループは、自然のめぐみから  
 おいしさをつくりだすだけでなく、  
 いのちのめぐみを育み、  
 大切に活かす活動に取り組んでいます。



おいしさ、そして、いのちへ。  
 Eat Well, Live Well.

AJINOMOTO®

<http://www.ajinomoto.com/jp/>